

中国地方有数の学習塾「田中学習会」の運営会社である株式会社ビーシー・インクス(広島市安佐北区、以下「ビーシー・インクス」)にとって2016年は大きな変革の年となった。同年4月21日には香港系のCLSAキャピタルパートナーズが助言を行う、日本企業投資に特化したプライベートエクイティファンドであるサンライズ・キャピタル(以下、「サンライズ」)との資本提携を実施した。また同年12月1日には新会長・新社長の就任を発表し、翌12月2日には小学校受験を中心とする株式会社東京学習社(広島市東区)の全株式取得を発表した。創業30余年にして新たな転換期を迎えるビーシー・インクスに迫る。



田中弘樹会長と昨年12月に就任した川隅学新社長

### サンライズとの資本提携

昨年12月1日に代表取締役会長に就任した田中弘樹会長は、1985年の創業以来、一族で保有していたビーシー・インクス株式の一部を、サンライズに売却する決断をした。30年超にわたり、毎

年増収・生徒数拡大を続けていたビーシー・インクスが資本提携に踏み切った背景は何だったのだろうか。当時の決断を田中会長はこう語る。「創業来、事業面、経営面ともにリーダーシップをとってききましたが、これまで典型的なオーナー企業である「田中商店」としてやってきた我が社を、しっかりとした経営組織に変革させる必要がある

と感じていました。私も歳を重ね、田中学習会を未来永劫存続する組織にするためにもどこかのタイミングで経営のバトンタッチも考える必要があると思い始めていました。そんな折、サンライズの方からご提案を頂く機会がありました。協議を重ねる上でサンライズの描く今後の経営体制や成長方向性に共感を抱いたことから今回の決断となりました。外資系ということで最初に会うまではイメージがわきませんでした。が、日本企業の投資に特化しており、経営支援実績が多数あることや、責任者や担当者に対する個人的な信頼感があったことも一つでした。サンライズとの資本提携後は、想定以上の効果が出ているようだ。サンライズ参画後の変化について、田中会長は語る。



創業以来オーナー企業である「田中商店」としてやって来た田中会長

「サンライズの参画後の動きは期待を超え、また納得のいくものでした。単なる資本提携を超えた支援があり、実際にサンライズの投資担当者は、資本提携後もCFO(最高財務責任者)として広島に常駐しながら全面的にサポートして下さり、社内でのマネジメント層とも密にコミュニケーションをとって頂いています。毎週行っている経営会議では、当初は社内の経営層からの発言が少なかつたものの、今ではサンライズのメンバー

抜きでも活発な議論ができるように変わっています。業績も好調で、16年11月期についても、創業以来連続で続けている増収も、97年以外続けている増益も確実になっています」。

前述のサンライズ担当者である侍留氏からも話を聞いた。

「カリスマ創業社長からの事業承継は、一般的にチャレンジを伴いますが、当社の場合、川隅社長以下経営陣の皆様と田中会長、サンライズが一つとして当社の更なる成長を目指しており、経営基盤の整備は着実に進んでいます。今後は新規事業の開発

や他地域への展開等、攻めの経営をサポートしていきます」と侍留氏は語る。

### 新会長・新社長の就任

ビーシー・インクスは12月1日付けで川隅学新社長の就任を発表した。田中弘樹前社長は、代表権を有する会長として、引き続き経営をリードする。

田中会長は、「一人で社長をやっていた時には気付かなかつたが、ビーシー・インクス、ひいては日本の教育界に貢献していくためにまだまだ私自身がやるのがたくさんあると感じている。今回の資本提携後も、当社の株主として代表取締役として更なる発展に全力を尽くしたい」と意気揚々だ。

「意思決定も整備し、私自身は本当にやるべきことに集中できている。東京学習社との資本提携についても、大変スムーズに安心して行うこと

ができた。結果として、社長の頃よりも忙しくなっている気もします」と笑みを浮かべた。

社長交代後も、田中学習会はこれまでの方針を変え



昨年4月に資本提携したサンライズ社と交えた経営会議の様子

ず、引き続き教育理念に基づき質の高い教育サポートを提供し、子供たちの人間力の形成に努める。「川隅新社長は先生としての生徒からの評判はもちろん、社内でも全幅の信頼を寄せられていま

す。まだまだ42歳と若く、勢いもあるため、堀尾美川常務、末廣宣治常務と共に、今後の田中学習会の成長に大きく貢献してくれるはずです」と、川隅新社長への期待も語った。

今回の社長交代について、川隅新社長は次のように語る。「田中前社長には代表取締役会長として引き続き中心でどしり構えて頂き、経営は私をはじめとする新経営陣がリードする形となります。『田中学習会』の教育理念に基づき、方針や授業運営はこれまで変わらず、引き続き子供達を第一に考えた教育サービスの提供に取り組みたいです」と語る。川隅新社長は、1974年生まれ、入社後は、広島県内の各教室での講師を経て、現在は呉中央校の教室長を勤める。

今後の経営方針については、これまでは広島県をはじめとする中国地方を中心に、中学、高校、大学受験準備

の支援を行ってきました。当然これらのサービスは継続して取り組むものの、今後はさらなる積極的な事業展開を計画しています。例えば、より幼少期からの能力開発やICT化の時代に必要不可欠とされるプログラミング教育等、受験対策にとらわれない新たな分野での教育サービスの提供も検討しています。実際、12月には、小学校受験塾として広島県で卓越した実績を有する東京学習社との資本提携を実現しました。田中前社長が築かれた事業基盤をさらに発展させ、より多くの子供達の成長支援を実現していきます」と意気込みを語ってくれた。少子化の影響により向かい風の吹く塾業界にありながら、ビーシー・インクスの挑戦は止まらない。新たなパートナーとしてサンライズを迎え、新社長体制となった新生ビーシー・インクスの今後のさらなる飛躍が楽しみである。